

救急超音波講習会

Emergency Ultrasound Workshop

開催日: 2018年8月4日(土) 8:20~16:30予定(受付開始 8:00)

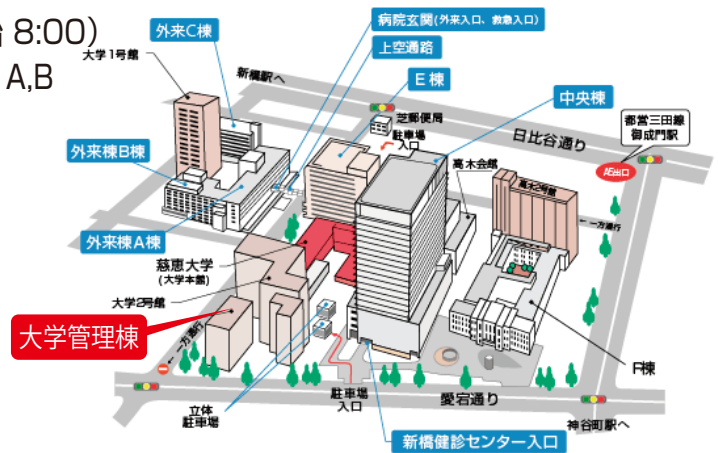
会 場: 東京慈恵会医科大学管理棟 9 階 カンファレンスルーム A,B

〒105-8461 港区西新橋3-25-8

交通のご案内:

■地下鉄

- ・都営三田線 御成門 A5 出口 約3 分
- ・内幸町 A3 出口 約10 分
- ・日比谷線 神谷町 3 出口 約7 分
- ・銀座線 虎ノ門 1 出口 約10 分
- ・銀座線・都営浅草線 新橋 8 出口 約12 分
- ・都営浅草線・都営大江戸線 大 門 A2 出口 約13 分
- ・丸の内線・千代田線・日比谷線 霞ヶ関 C3 出口 約13 分



【参 加 費】 講義(AM)のみ(定員:20名):

医師 14,000円、メディカルスタッフ 12,000円

講義(AM) & ハンズオン(PM) (定員30名):

医師 28,000円、メディカルスタッフ 22,000円

【対 象】 超音波診療を学びたいすべての医療従事者

【お申し込み方法】 2018年5月18日(金)より受付を開始します。

下記URLよりチケットをご購入ください。

https://www.0553.jp/eventpay/event_info/?shop_code=0000001321788353&EventCode=7826028717

定員になり次第、締め切らせて頂きます。

事前受付のお支払いはクレジットカードとコンビニ決済がご利用いただけます。

【問合わせ先】 救急超音波講習会 事務局代行((株)コンパス内)

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目3-11 NCKビル 5F

TEL:03-5840-6131 FAX:03-5840-6130 担当:濱、原田

E-mail: euc@compass-tokyo.jp

主催: Team Ultrasound, PLCC

共催: 集中治療医療安全協議会、キャノンメディカルシステムズ株式会社

協賛: 株式会社メディコン、株式会社八神製作所

ご挨拶

Beside Emergency Ultrasound, a technology with almost no contraindications, is now in high demand by all physicians, not just emergency physicians. Bedside, focused, point-of-care ultrasound is used daily for prompt and accurate diagnoses, for quickly identifying critical and life-threatening conditions. Ultrasound is also often used for assessment of volume responsiveness. Moreover, it has been shown to improve patient outcomes when those life-threatening conditions are identified early, ultimately guiding treatment at the bedside. Furthermore, clinical ultrasound has been demonstrated to decrease patient length of stay, improve ED throughput, and improve patient satisfaction. Finally ultrasound is quickly becoming standard of care for procedural guidance, including but not limited to vascular access, regional nerve blocks, abscess drainage, pericardiocentesis, paracentesis, and thoracentesis, overall decreasing morbidity and mortality.

ほぼ禁忌がないベッドサイドで行う救急超音波は、今や救急医のみならずすべての医師にとって大きな需要があります。ベッドサイドで焦点を絞ったポイント・オブ・ケア超音波は、迅速で正確な診断のため重症で生命危機の病態を覚知するために日常的に使用されています。また、超音波はしばしば輸液反応の評価にも用いられています。そのうえ、早期に生命危機の病態を認識することで、結果的にベッドサイドでの治療を可能にして患者の予後を改善することが知られています。それだけではなく、臨床における超音波の利用は在院期間を短縮し、救急外来の流れを改善させ、患者の満足度を向上させることが明らかになっています。何よりも、超音波は血管穿刺、神経ブロック、膿瘍ドレナージ、心嚢穿刺、腹腔穿刺、胸腔穿刺だけに限らない手技のガイドとして用いられる標準的な機器になっており、合併症発生率や死亡率を低下させるようになって来ていることを知ってください。



Course Director :
MacLong Tran

コース開催の目的



Course Coordinator:

児玉 貴光

今日では、臨床医学における超音波の有効性については十分に理解がなされていると思います。救急医療領域において、生命危機に瀕した患者を救命するためには、迅速かつ安全に検査や処置が行える超音波機器を使いこなせるようになることが理想です。

しかしながら、わが国においてはいまだに標準化された教育手法は存在せず、教育が行われたとしてもその効果判定も曖昧なままですまされているのが現状です。一方、米国においては米国救急医学会が米国医師会や関連学会と連携を取りながらエビデンスに基づいた教育を提供しています。米国の救急超音波はわが国の遙か先を行っており、学ぶべき点が多く存在します。このたび、わが国の救急医療レベル向上のために昨年に引き続いて米国から講師を招聘することができました。日本国内に居ながらにして米国内で開催されている教育コースと全く同じプログラムを受講できるようになりました。この機会を逃すことなく、多くの方が本コースを受講されることを期待いたしております。

講師

Course Director: MacLong Tran (Texas Health Presbyterian Hospital (Dallas, Plano, Rockwall, and Allen) and Childrens' Hospital of Dallas)

Instructors: Jodi Jones (University of Texas Southwestern Medical Center, Department of Emergency Medicine)、Jonathan Purcell (Emergency Medicine Consultants, LTD)、Mandy Pascual (University of Texas Southwestern Medical Center, Department of Emergency Medicine)、太田智行 (東京慈恵会医科大学病院 放射線科)、入江仁 (津軽保健生活協同組合健生病院 救急集中治療部)

Course Coordinator: 児玉 貴光 (愛知医科大学病院 医療安全管理室 / 愛知医科大学 災害医療研究センター)

コース顧問: 松本 純一 (聖マリアンナ医科大学 救急医学)

(講師紹介は次頁をご参照ください。)

Emergency Ultrasound Course in Tokyo 4th Aug (Sat), 2018(予定)

	Time		Charge	Theme	
Didactic Lectures *	8:00 - 8:20			Registration	
	8:20 - 8:30	10min		Precautions	
	8:30 - 8:40	10min		Greeting	
	8:40 - 9:10	30min		Cardiac Echo	
	9:10 - 9:40	30min		GB + Renal	
	9:40 - 10:00	20min		Aorta	
	10:00 - 10:10	10min		break	
	10:10 - 10:30	20min		IVC	
	10:30 - 10:50	20min		DVT	
	10:50 - 11:30	40min		RUSH + EFAST Technique	
	11:30 - 11:50	20min		RUSH Application	
	11:50 - 12:10	20min		MD: Miscellaneous (Ocular, Soft tissue / Foreign Body)	Non-MD: Basics and Knobology
	12:10 -12:30	20min		MD: Para- / Thora- / Pericardiocentesis	
	12:30 - 13:30	60min		Lunch	
	12:40 - 13:00	20min	Cannon	Greeting and Merchandise Explanation	
Skill Booths	13:30 - 14:00	30min		Rotation: EFAST, DVT, Cardiac Exams, Aorta / IVC / GB, Miscellaneous (Ocular, Soft tissue / Foreign Body, Renal)	
	14:00 - 14:30	30min			
	14:30 - 15:00	30min			
	15:00 - 15:10	break			
	15:10 - 15:40	30min			
	15:40 - 16:10	30min			
	16:10 - 16:30	20min	All	Wrap Up	
	16:10 - 16:30	20min		Closing Remark	

* After each lecture, Japanese instructors will add a comment.

<注意事項>

- ・講義の公用言語は**英語**になります。日本語訳したハンドアウトを配布する予定です。
- ・コースを修了した受講生には、コースディレクターから修了証が発行されます。
- ・コースの前後にアンケートを行う予定です。アンケートの提出がコース修了の条件となります。
なお、アンケートの内容は、無記名化の上でデータが各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・コースの最中に写真を撮影する場合があります。写真については、各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・講義の撮影や録画はご遠慮ください。
- ・キャンセルポリシー
受講決定後のキャンセルは、受講料は返却致しません。
- ・昼食
付近に昼食を摂ったり購入できる場所はあまりありません。あらかじめご準備くださるようよろしくお願い申し上げます。

講師紹介

	MacLong Tran	Jodi Jones	Jonathan Purcell	Mandy Pascual	松本純一	児玉貴光	太田智行	入江仁
現職	Texas Health Presbyterian Hospital (Dallas, Plano, Rockwall, and Allen) and Childrens' Hospital of Dallas	University of Texas Southwestern Medical Center, Department of Emergency Medicine	Emergency Medicine Consultants, LTD	University of Texas Southwestern Medical Center, Department of Emergency Medicine	聖マリアンナ医科大学 救急医学 講師	愛知医科大学病院 医療安全管理室 / 愛知医科大学 災害医療研究センター	東京慈恵会医科大学 病院 放射線科	津軽保健生活協同組合 健生病院 救急集中治療部
出身	2004年 Ross University School of Medicine卒	2001年 Temple University School of Medicine卒	2009年 University of Texas Southwestern Medical School卒	2011年 Boston University School of Medicine卒	1995年 聖マリアンナ医科大学卒	1996年 自治医科大学卒	1997年 信州大学医学部卒	2005年 弘前大学医学部医学科卒
研修歴	・2007年 Wayne State University/Sinai-Grace Hospital, Emergency Medicine Residency修了 ・Resurrection Medical Center Emergency Medicine Fellowship修了	2005年 Lincoln Medical and Mental Health Center Weill Medical College of Cornell University, Emergency Medicine Residency修了	・2011年 University of Chicago, Emergency Medicine Residency修了 ・2013年 University of Texas Southwestern Medical Center Emergency Medicine Fellowship修了	・2014年 University of Texas Southwestern Medical Center, Emergency Medicine修了 ・2015年 University of Texas Southwestern Medical Center Emergency Medicine Fellowship修了		・1998年 石川県立中央病院 初期研修修了 ・2003年 石川県立中央病院 後期研修修了	・1999年 横浜市大医学部付属病院 初期研修修了 ・2001年 東葛病院 後期研修修了	・2007年 津軽保健生活協同組合 健生病院 初期研修修了 ・2011年 津軽保健生活協同組合 健生病院 救急集中治療部 後期研修修了
資格	医師	医師	医師	医師	医師・医学博士	医師	医師・医学博士	医師
専門資格	Fellow of the American College of Emergency Physicians	American Board of Emergency Medicine	American Board of Emergency Medicine		日本医学放射線学会 診断専門医	・日本救急医学会 救急科専門医 ・日本内科学会 認定内会 ・日本プライマリ・ケア連合学会 認定医	・日本医学放射線学会 診断専門医 ・日本超音波医学会 総合指導医	日本救急医学会 救急科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会 認定指導医
メッセージ	This will be our fourth year bringing the Team Ultrasound Workshop to Japan. I look forward to meeting new clinicians and introducing clinical ultrasound techniques to their clinical repertoire! We will be available for training and to answer all of your questions. Look forward to meeting you all soon. Arigato. (日本におけるTeam Ultrasoundによる4度目のワークショップを開催します。新しく医療従事者の皆さんにお会いして、皆さんのレパートリーに超音波を加えるために紹介できることを楽しみにしています。私たちは良い教育を提供し、疑問に答えることができるでしょう。もうすぐお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございます。)	Thanks for inviting me to your beautiful country and taking the time to learn about ultrasound, I hope to teach you applications that you can apply to your current practice. Welcome! (美しい国・日本を訪れること、ともに超音波を学べることを感謝しています。あなたの現在の診療スタイルに超音波を加えるお手伝いができることを願っています。講習会によろこそ！)	I am excited to return to Japan to continue teaching ultrasound and engage in shared learning! My passion is ultrasound in critically ill patients, including use of echo and ultrasound to help guide fluid resuscitation. (超音波を教育を継続してともに学ぶために再び日本を訪れることを楽しみにしています！私は輸液蘇生の指標を検査するための超音波使用を含めた重症患者管理に情熱を燃やしています。)	Thank you for allowing us to share our ultrasound knowledge. We appreciate you taking the time to learn these skills. Thanks for having us here! (私たちが持つ超音波のノウハウを共有できること嬉しく思います。みなさんと知識や技術を学ぶ時間を持つことを感謝いたします。一緒に頑張りましょう！)	「よい治療はよい診断から。よい診断はよい検査から。よい検査はよい診察から。」超音波検査は、検査でもあり診察でもあり、基本的診療技術としての位置づけが、もっと広く実臨床の場で共有されるべきだと思えます。	救急超音波を学ぶことで、診療に対する自信が増すことは間違いありません。より早く、より安全に、より確実な医療を提供するための武器を身に付けてください！	超音波検査はartとscienceがせめぎ合う画像診断です。知識と経験のある人がやれば、短時間で効果的な decision making につながりますが、そうでない人がやれば、それなりです。自身と超音波検査の弱点を認識し、失敗を振り返りながら、日々精進されることを期待します。超音波画像診断は院内外に関わらず、検査室内外に関係なく、あらゆる救急現場に有効です。皆さんと一緒に勉強できることを楽しみにしています。	サチュレーションがバイタルサインの一項目として違和感なく並んでいるのと同じように、POCUSで得られた所見を「検査所見」ではなく迅速に得られる「身体所見」のように扱う日がもうそこまで来ていると感じています。本セミナーのような講習会で基本を押さえ、エコーにアクセスしやすい診療環境を整えることで皆さんの日常診療がより確かなものになることを願っています。